

# 令和7年度

## 全国学力・学習状況調査

### 能代市分析結果



能代市教育委員会

# 1. 調査の概要

## (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## (2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

## (3) 調査の内容

### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・小学校調査：国語、算数、理科
- ・中学校調査：国語、数学、理科

### ② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## (4) 調査の方式

悉皆調査

## (5) 調査期日

令和7年4月17日(木)



## (6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	実施児童生徒数
小学校	7校	7校（100%）	264人
中学校	6校	6校（100%）	324人

## 2. 教科に関する調査結果

### < 概要について >

小・中学校とも概ね良好な状況です。

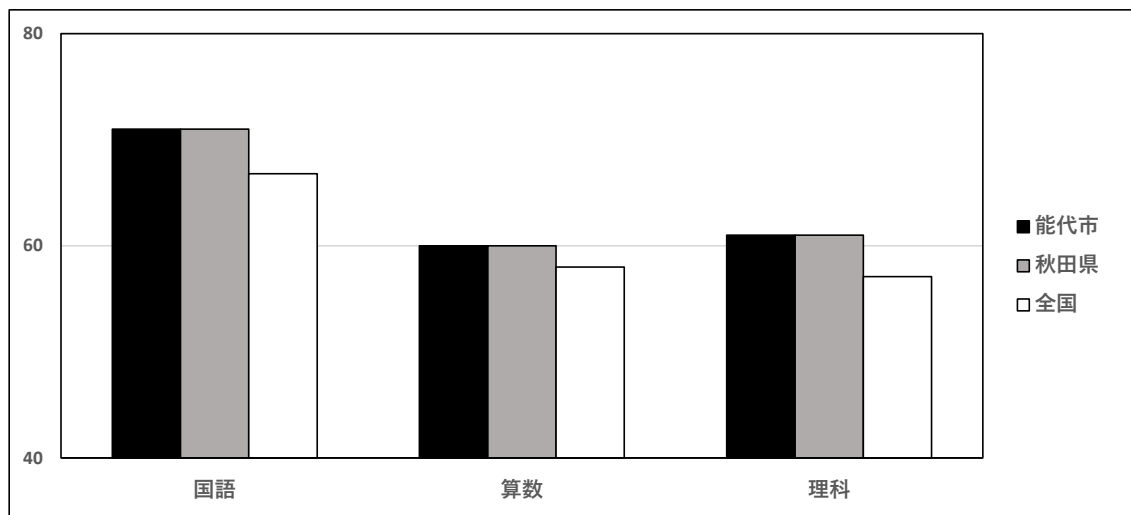
#### (1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学、理科、全てで全国平均を上回っています。

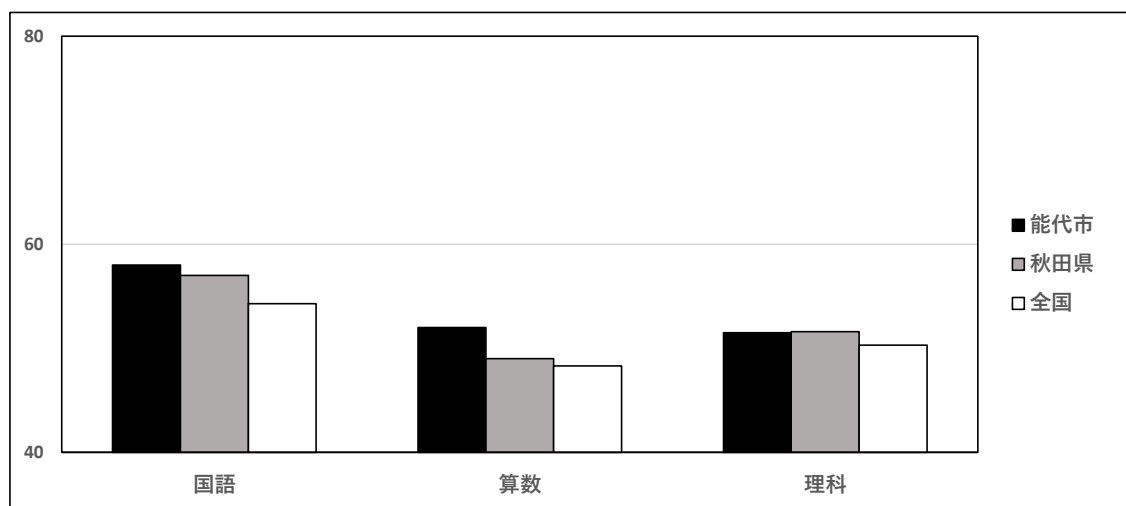
#### (2) 秋田県比較について

小学校は、同程度であり、中学校では国語、数学で上回っています。

#### (3) 小学校6年生平均正答率 (%)



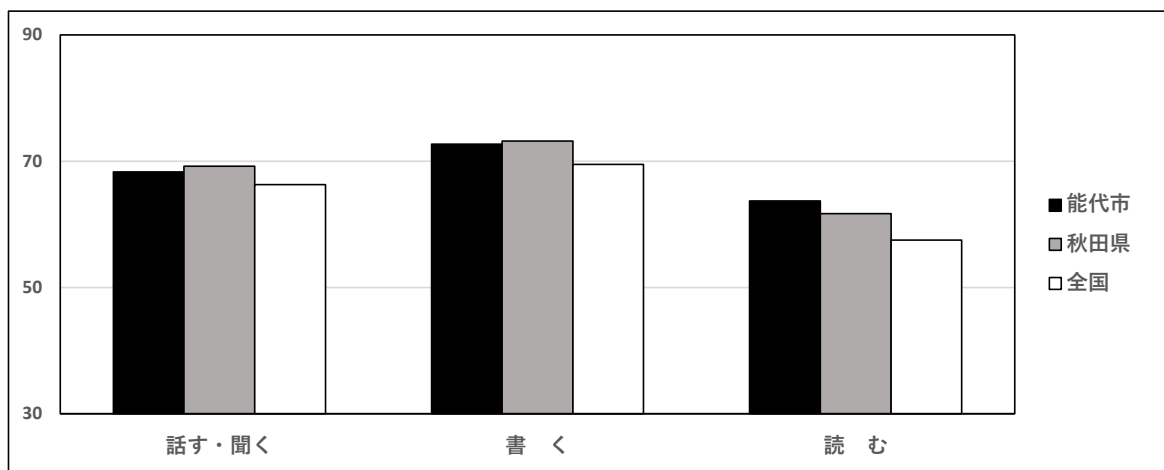
#### (4) 中学校3年生平均正答率 (%)



※理科はIRT方式の調査のためIRTスコアを10分の1で示しています。

# 3. 教科に関する調査結果(小 国語)

## < 小学校国語について >



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域で概ね良好な状況です。

全ての領域で全国平均を上回っており、読むことの領域で秋田県平均を上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、6問が全国及び秋田県平均を上回っています。



目的に応じて、文章と図表などを結び付ける等して必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問3三(1)】

## 更なる向上を目指して

・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題

【設問1三(2)】

・図表を用いて自分の考えが伝わるように表し方を工夫する問題

【設問2二】



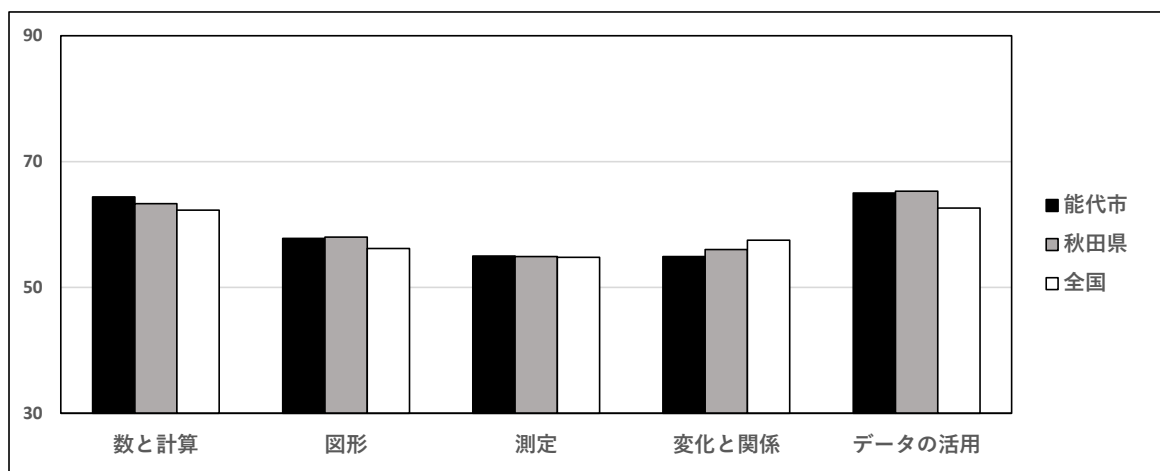
## 指導のポイント

- ・話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えを、まとめることが大切です。学習指導に当たっては、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにすることが大切です。
- ・図表やグラフを用いた文章と用いていない文章を提示する等して、図表やグラフの効果を理解できるようにすることが考えられます。その上で、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査報告書

# 3. 教科に関する調査結果(小 算数)

## < 小学校算数について >



### (1) 領域別平均正答率の結果について

一部の領域で課題が見られます。

数と計算、測定の領域で全国平均、秋田県平均を上回っていますが、変化と関係の領域で全国平均、秋田県平均を下回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。  
【設問2(1)】

## 更なる向上を目指して

- 方眼上の五つの図形の中から台形を選ぶ問題【設問2(2)】
- 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後」が「増量前」の何倍になっているかを表す問題【設問4(4)】

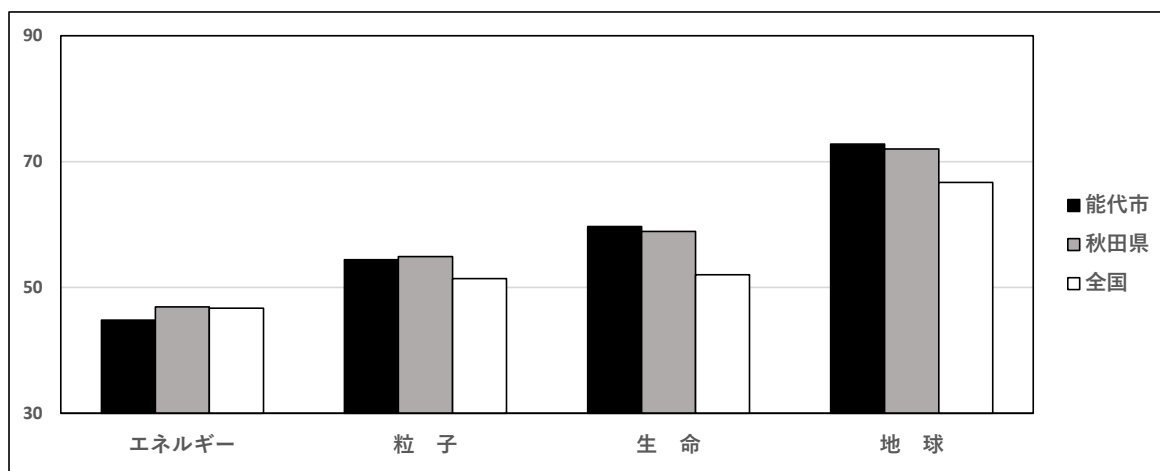


## 指導のポイント

- 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目しながら、図形の性質を基に弁別した理由を説明することで、置き方をいろいろと変えても図形の性質は変わらないことを理解できるようにすることが大切です。また、図形の性質を基に台形でない理由を説明したり、それらの図形をどのように構成し直せば台形になるのかを考えたりすることができるようになることも大切です。
- 増量前の量を基準量100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として、0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにして、図と式や言葉等を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにすることが大切です。  
【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査報告書

# 3. 教科に関する調査結果(小 理科)

## < 小学校理科について >



### (1) 領域別平均正答率の結果について

一部の領域で課題が見られます。

生命と地球の領域で全国平均、秋田県平均を上回っていますが、エネルギーの領域で全国平均、秋田県平均を下回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全17問中、9問が全国及び秋田県平均を上回っています。



磁力を強めるために、コイルの巻数の変え方を書く問題と、顕微鏡で観察する際に適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題で、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問2(3)、設問3(2)】

## 更なる向上を目指して

• 電気回路のつくり方について、実験方法を発送し、表現する問題

【設問2(2)】

• 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識の問題

【設問2(4)】

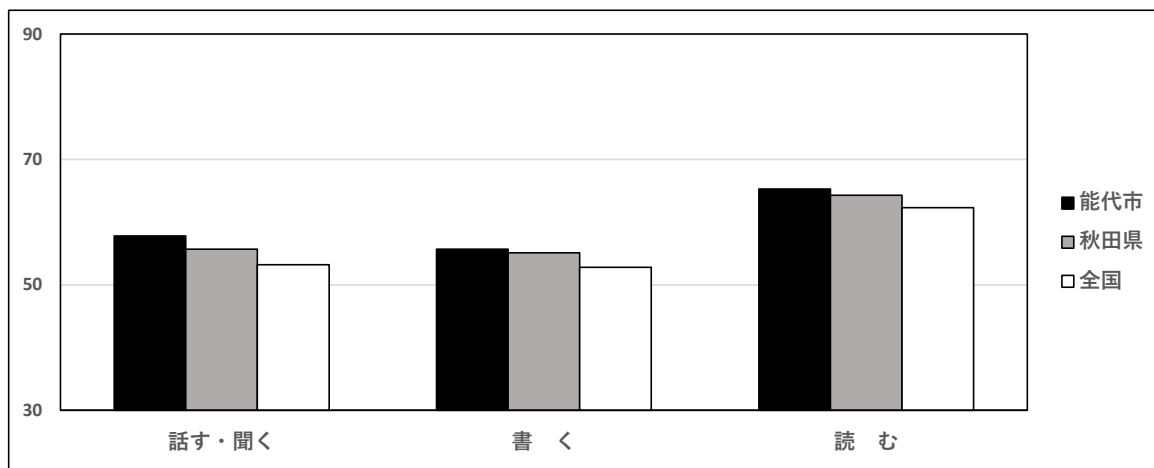


## 指導のポイント

- 児童が既習の内容から目的を設定し、その目的を達成するためにもものづくりを行っていく過程で、条件を制御しながら、データを計測しつつ修正するといった活動の充実を図ります。そして、ものづくりの活動を振り返り、既習の内容を生かしながらものづくりができたことを自覚できるようにする学習活動が考えられます。
  - ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりする等、学習を通して得た知識の理解を深めることが大切です。また、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正する学習活動が考えられます。
- 【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査報告書

# 3. 教科に関する調査結果(中国語)

## < 中学校国語について >



※ 言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、10問が全国及び秋田県平均を上回っています。



相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題で、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。 【設問2二】

## 更なる向上を目指して

- ・文脈に即して漢字を正しく書く問題 【設問1一】
- ・根拠を明確にして自分の考えを書く問題 【設問1四】



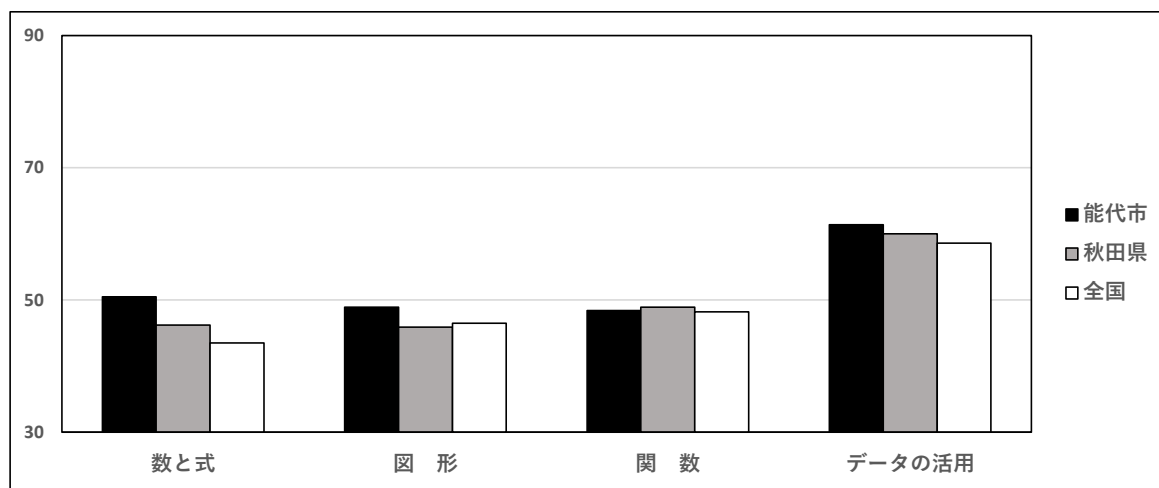
## 指導のポイント

- ・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うように指導することが大切です。1人1台端末等を活用して文字を入力する活動を行う場合には、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるよう、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことに留意することが必要です。
- ・自分の考えが伝わる文章にするために、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要です。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要です。その際に、接続する語句や指示する語句を用いる等して、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くように指導することが大切です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査報告書

# 3. 教科に関する調査結果(中 数学)

## < 中学校数学について >



### (1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において概ね良好な状況です。

全ての領域で全国平均を上回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



1から9までの数の中から素数を全て選ぶ問題と、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現で説明する問題で、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。【設問1、設問7(2)】

## 更なる向上を目指して

- 一次関数について、変化の割合を基に  $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量を求める問題 【設問4】
- 式から成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題 【設問6(2)】



## 指導のポイント

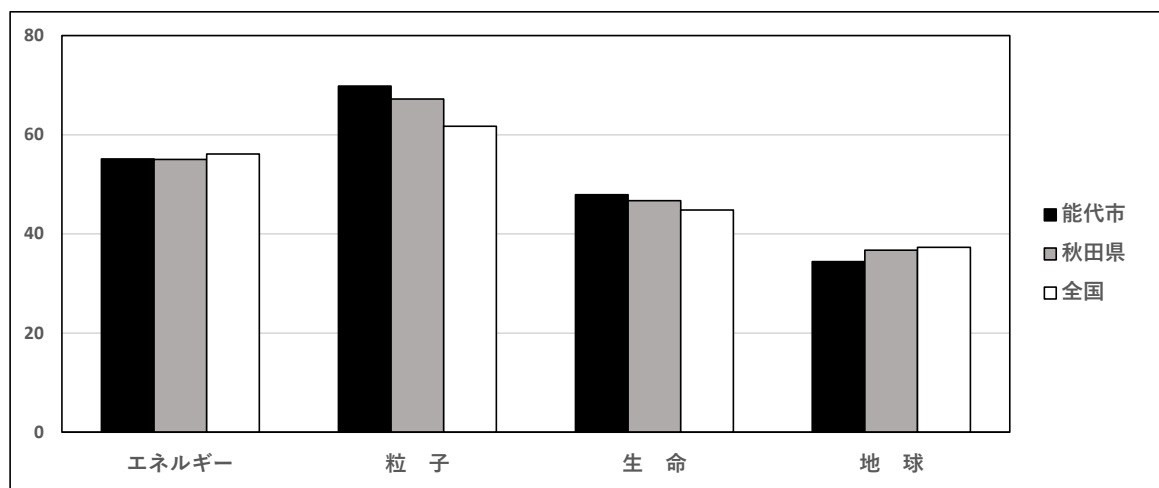
- 一次関数における  $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量を求めることができるように指導することが大切です。また、日常生活や社会の事象における問題において、その事象から一次関数の関係を見だし、変化の割合を活用して解決できるように指導することが大切です。
- 文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切です。例えば、連続する二つの3の倍数の和がどのような数になるかを文字式を用いて考察する場面やその文字式がどのような式に変形できるかを考察する場面を設定することが大切です。前提と結論を明確にして表現できるようにすることも大切です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査報告書



# 3. 教科に関する調査結果(中 理科)

## < 中学校理科について >



### (1) 領域別平均正答率の結果について

一部の領域で課題が見られます。

粒子と、生命の領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。  
エネルギーと、地球の領域で全国平均を下回っています。

### (2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全22問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



気体(ガス)の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる問題と化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかをどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。【設問4(1)】【設問7(2)】

## 更なる向上を目指して

- 実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題 【設問5(2)】
- 大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる問題 【設問8(1)】



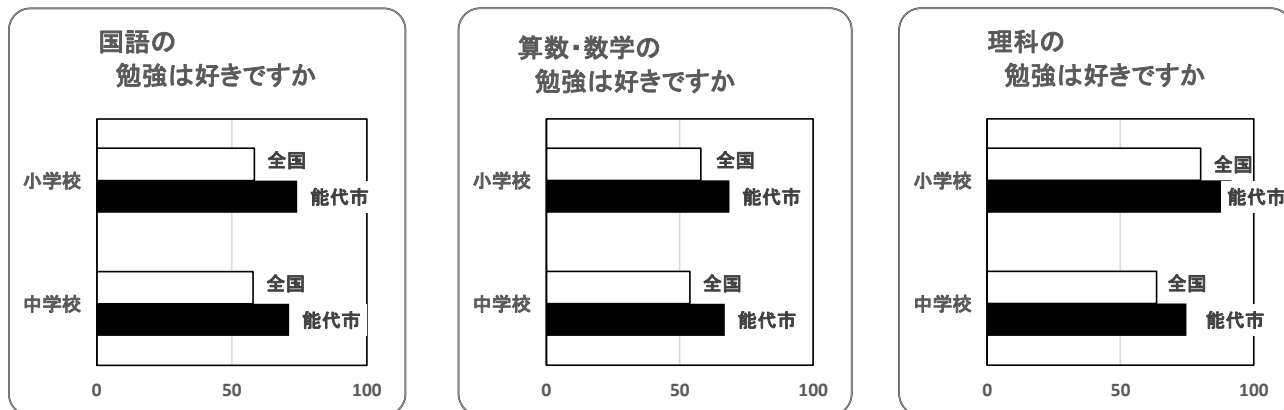
## 指導のポイント

- 化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事象を捉えるようにすることが考えられます。その際、化学変化における「反応する物質」と「生成してできた物質」を整理した上で、「化学変化の前後で原子の種類は変わらず、原子の数も変化しない」という知識を確認し、微視的に事象を捉えることが大切です。その際には、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにする活動が考えられます。
- 大地の変化に関する知識及び技能と過去に起きたと考えられる事象を関連付けて考察する学習場面を設定することが考えられます。その際、身近な地域や博物館等の資料や、1人1台端末等を活用し、具体的な例を挙げ、興味・関心を高めるようにすることが大切です。【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査報告書

# 4. 質問紙調査結果①（授業づくり）

## （1）国語、算数・数学、理科に対する関心・意欲・態度

各教科に対する関心や意欲が高い児童生徒の割合が全国平均と比べて高い。

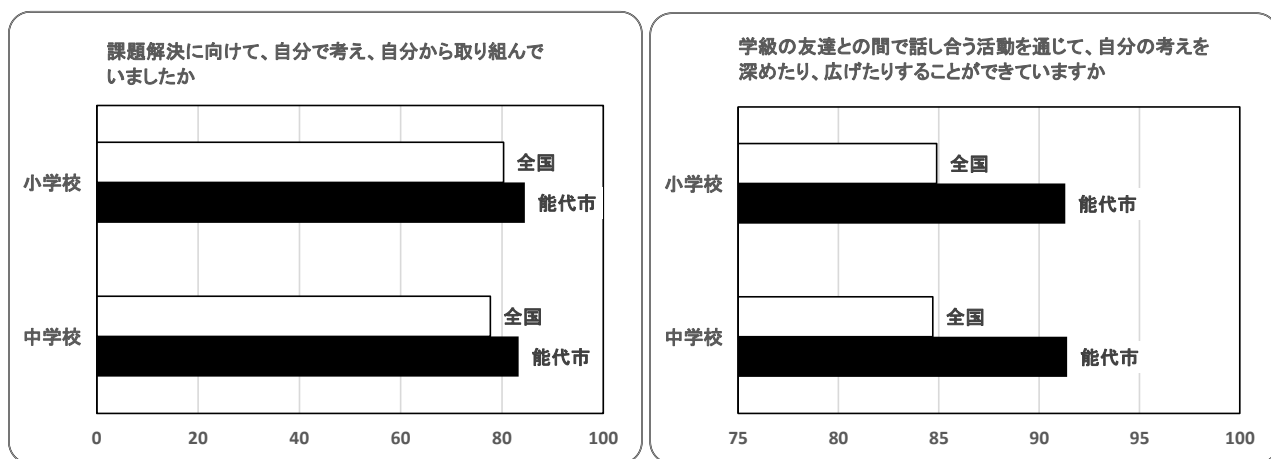


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小学校の国語、算数、理科、中学校の国語、数学、理科ともに、全国平均を上回っています。また、「授業の内容はよく分かりますか」についても、それぞれの教科で全国平均を上回っています。

## （2）授業中での児童生徒の意識

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合が全国平均より高い。



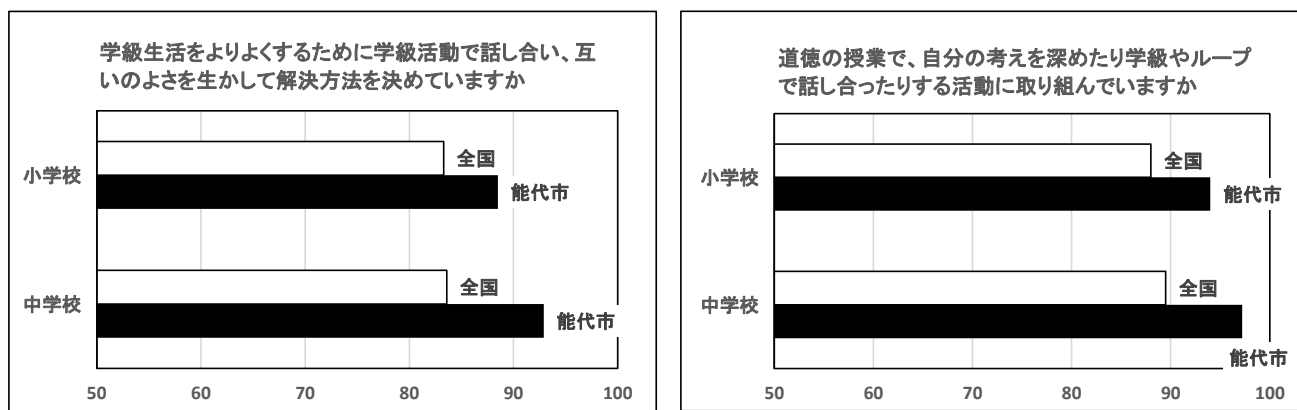
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。各教科において秋田の探究型授業（見通し-個で考え-考えを共有-振り返り）が定着し、主体的・対話的な深い学びが展開されていることがうかがえます。

## 4. 質問紙調査結果②（話し合い・ICT）

### （1）話し合い活動

学級生活をよくするための話し合いや、考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均に比べて高い。



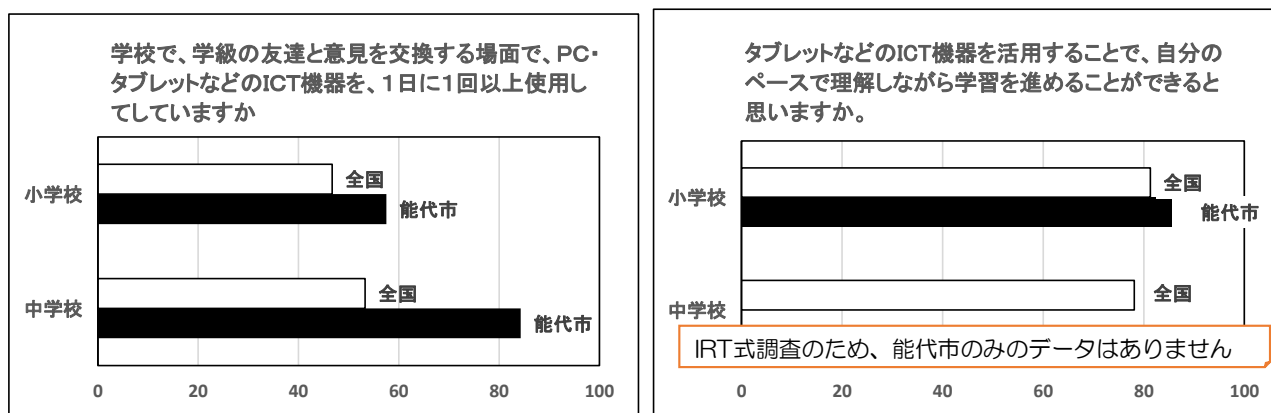
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

各教科同様、特別活動や道徳等でも、互いの意見のよさを認め合いながら、話し合う活動が取り入れられています。話し合い活動を充実させることは、自分と友達の考えや意見を比較し、折り合いを付けていく力の伸長に繋がります。

### （2）個別最適な学びのためのICTの活用

「自分の考えをもつ」「集団で話し合う」などの場面で、ICT機器の活用が図られている。

ICT機器の活用により自分に適した学び方で、学習を進めることができると考える児童生徒が多い。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

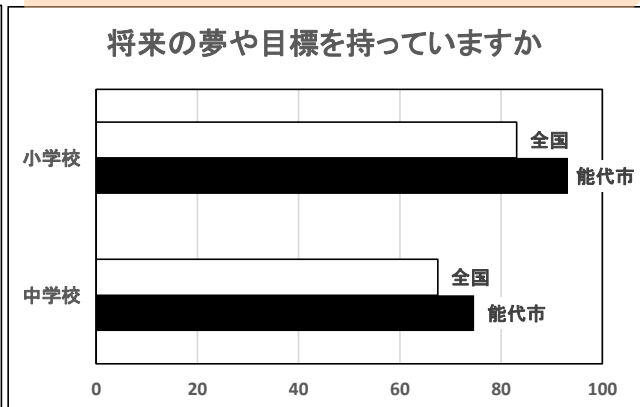
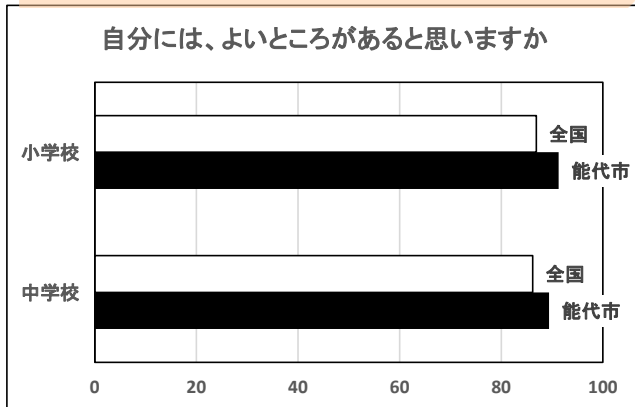
タブレット型端末を使用する段階から活用する段階へと移行し、より効果的な活用が図られるようになってきています。アナログとデジタルのベストミックスを意識し、ICTをうまく機能させながら児童生徒の学びを深めていきたいものです。

## 4. 質問紙調査結果③ (ふるさと・キャリア)

### (1) 自己肯定感、キャリア形成

自分にはよいところがあると思っている児童生徒が9割近くいる。

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は全国平均より高い。



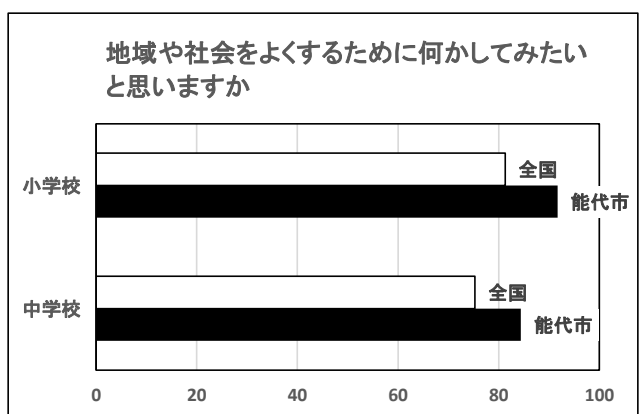
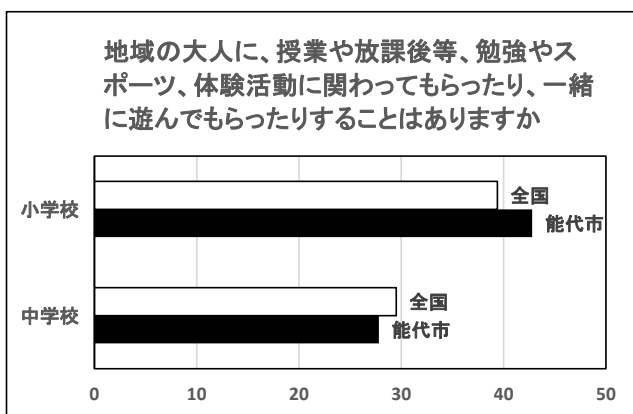
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

授業や学校行事等で、児童生徒一人一人が活躍できる場や他者から認められる場を意図的に設定し、自己肯定感の醸成やキャリア教育の充実に努めていくことが大切です。

### (2) 地域との関わり、地域貢献

中学生になると、地域の大人との関わりが減少していく傾向にある。

地域をよくするために何かしてみたいと思っている児童生徒の割合が全国平均より高い。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

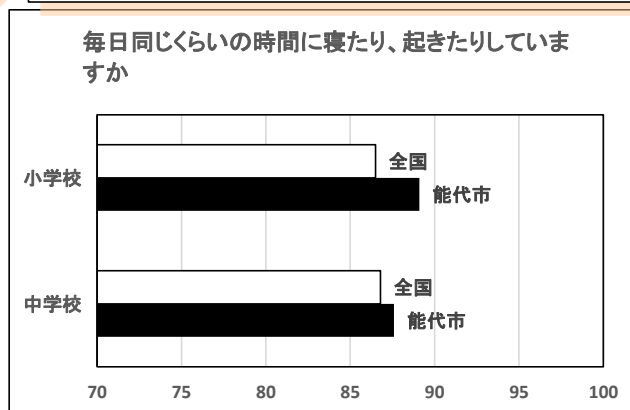
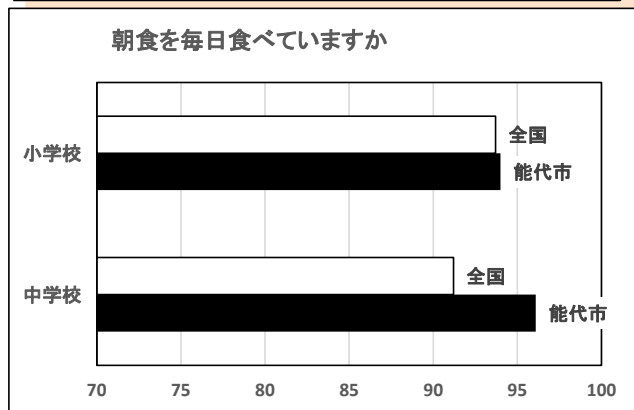
各校で地域の方に協力をいただきながらの学習活動を多く取り入れられているため、地域の活動に参加しようとする児童生徒が育ってきています。しかし、中学生については、地域の大人との関わり合いの割合が全国平均に比べて低くなっています。

## 4. 質問紙調査結果④ (家庭の教育等)

### (1) 家庭生活 (朝食・生活リズム)

小学校、中学校において、朝食を毎日食べている児童生徒の割合が全国平均を上回っている。

小学校、中学校において、毎日同じくらいの時間に寝たり起きたりしている児童生徒の割合が全国平均を上回っている。

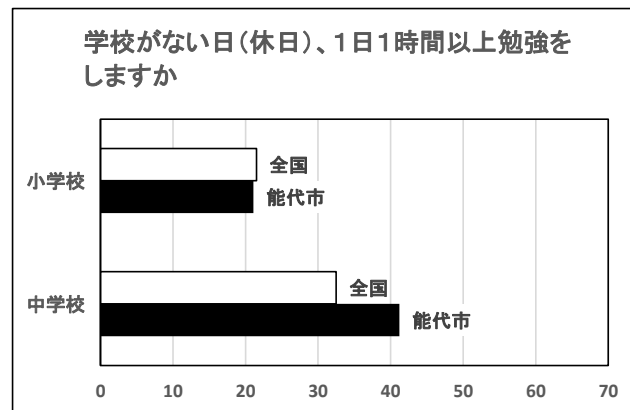
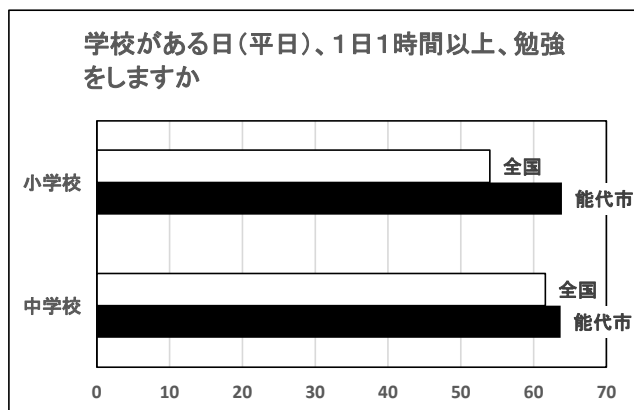


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

学校生活をよりよく過ごすためには、朝食を摂り、規則正しい生活を続けることが大切です。よりよい生活習慣の定着のために、機会を捉えて、継続して指導していくことが重要です。

### (2) 家庭での学習時間

- ・ 平日1時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
- ・ 休日1時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
- ・ 平日、休日ともに1時間以上勉強する割合は、小学校から中学校で増加している。



昨年度と比較し、家庭での学習時間が減少している傾向がみられます。学校と家庭が連携し、児童生徒が自ら学ぶ時間を確保できるよう指導・工夫していくことが大切です。